



第43期

報告書

2010年4月 1日

～

2011年3月31日



Daiohs[®]
株式会社 **ダイオース**

トップインタビュー



代表取締役社長

大久保真一

ご挨拶

このたびの「東日本大震災」により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早く平穏な生活に戻られますことを切にお祈り申し上げます。

皆様には大変ご心配をおかけ致しましたが、弊社におきましてはお蔭様をもちまして東北地方の従業員および営業拠点に大きな被害は無く、早期に平常の企業活動を再開しております。今後とも皆様の変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

第44期の重点政策

■国内部門(ダイオースサービスズ)

東日本大震災の影響による「景気の下振れ」と原発問題による節電計画を眼前にした「消費の自粛」という環境下において、既存顧客との継続契約を確保する「守」と、積極的な新規開拓を行い業界内でのシェアを拡大させる「攻」とのバランスの取れた営業体制を確立し、安定した利益を確保していく事が当面の課題となります。具体的には守りの分野においては提供する商品によって異なる「ルートオペレーションの基本」を忠実に遂行しそれぞれのサービスに対する付加価値を高め、顧客満足度を高めてまいります。



又、サービス業としての「あるべき姿」である「年中無休の365日営業体制」を上半期中に東京23区において完成させ、順次全国レベルに拡大展開してまいります。一方、攻めの分野である新規顧客の開拓については、扱う商品毎の専門セールスチームを支店の管轄するエリアに専属配置をする事により、顧客の求める価値に対してスピーディーに対応できる営業体制を確立してまいります。

組織体制におきましては従来のエリア重視の5営業本部体制から4営業本部体制への再編を行いました。複雑化されたオペレーションを順次見直し、シンプル化による経営効率の最大化を目指してまいります。

■米国部門(ダイオーズUSA)

Daiohs U.S.A., Inc.の中核事業であるOCS(オフィスコーヒーマーケティングサービス)は、職場において従業員がどれだけコーヒーを消費するかがその時の市場規模に大きな影響を及ぼします。全米の失業率については特にここ半年の雇用状況の改善は著しいものがあり、米国景気自体も緩やかな回復方向に向かっていて、この傾向が継続すれば当社米国事業にも好ましい影響があるという見通しを持っています。

この状況を受けて、過去数年続いてきた景気後退に伴う当社の売上減少の外的要因は無くなったと判断し、各拠点の現在の売上規模を分析して減ってしまった売上を回復するための営業力増強に注力する一方で、現時点の売上でも十分利益が出せるような拠点については売上現状維持のまま更に生産性、利益性を向上できるように、個別に判断して利益管理を行ってまいります。

M&A戦略に関しては、当社の既存拠点に統合可能な案件について、即時利益増加になる案件などを中心に吟味の上、実行してまいります。また、未進出地域における案件については、当社の既存管理体制の中で対応可能な地区を予め選定の上、条件の合致した地区の案件を積極的に探してまいります。また、シカゴより至近距離にある市場としてウィスコンシン州ミルウォーキー市場に本年度中に自力出店も予定しております。

事業の内容

国内部門

TOPICS1

ダイオーズ福島工場竣工

CCS(クリーンケアサービス)商品の自社洗濯工場を福島県いわき市に建設いたしました。



TOPICS2

新商品の発売

業界初となる「ボトルウォーター対応ティーサーバー」を開発いたしました。オフィスのスペースを有効活用できるコンパクトな設計です。当社の「ピュアウォーター」を給水源とし、「安心・安全」をこれまで以上にお届けしてまいります。



飲料サービス

■ オフィスコffeeサービス

自社工場を持ち、生豆から焙煎、包装、全国への配送と、一貫した生産・物流ラインが敷かれています。また、二酸化炭素(CO₂)の排出量を抑えるために、コーヒーを焙煎する熱源を水溶性天然ガスに転換するなど、環境に配慮して業界に先駆けたプロジェクトを推進しています。



■ ウォーターサービス

当社のウォーターサーバーはオフィスのオアシスとして幅広いお客さまに親しまれてます。コンパクト・シンプルなデザインのボトルタイプと、便利な水道直結タイプをご用意しておりますので、ご利用人数や設置場所に応じて最適なサーバーをお選びいただけます。

環境サービス

■ クリーンケアサービス

40年を超える豊富な経験を活かし、スペースや環境に合わせた最適なクリーンケアを行える商品をラインナップ。定期的にお伺いして、清潔なサイクルを維持した高品質な商品をお届けしています。



■ ECOトナーカートリッジサービス

信頼に応える高品質、保証体制のリサイクルトナーカートリッジにより、ランニングコストを大幅に低減。「大量消費型から循環型へ」という社会の流れにも対応し、経費と資源のムダを省きます。

■ オフィス清掃サービス

清掃員がすべて独立事業主という、画期的な清掃システム。パートやアルバイトによるこれまでの清掃会社と違い、清掃のプロであり事業責任者であるオーナーが自ら責任をもって清掃を行います。

事業の内容

海外部門（米国）

オフィスコーヒー事業を中核とし、ウォーター事業など関連するオフィスの「従業員休憩室」関連の各種サービスを展開しております。

米国西海岸5州でナンバーワンとなり、2006年7月よりシカゴ、デトロイトなど中西部五大湖地区にも進出し、トップシェアを獲得。2008年よりテキサス州にも出店しております。長期的な全米展開を目指して、リージョナル営業ネットワークを形成しております。







日本証券アナリスト協会のホームページに
ダイオーズの紹介記事が掲載されました。

<http://www.daiohs.com>

企業

4653 **ダイオーズ**

大久保 真一 (オオクボ シンイチ) 株式会社ダイオーズ社長

業界初ボトルウォーター対応
ティーサーバーの開発に成功



■米国部門がドルベースで増収

2011年3月期の売上高は140億99百万円(前期比95.2%)となった。営業利益は8億56百万円、経常利益は8億79百万円、当期純利益は3億51百万円となっている。自己資本比率は順調に積み上がっており、前期の81.1%から82.3%に上昇した。

米国部門の売上高は、ドルベースで前期比101.5%となった。リーマンショック後は前期比90%前後で推移していたが、上向きになってきている。ただし、円ベースでは前期の65億12百万円から60億95百万円に減少しており、連結売上高に影響した。

連結営業利益は前期比101.9%、当期純利益については、前期比で約1億9百万円の減少となった。要因として、国内部門においては、売掛未収金と期末残高の差異が発生し、調整を実施した。米国部門においては、係争中であった訴訟が当事者同士で和解に達したので、和解金相当額を引き当てた。

■経営サポート室を拡充

当期のトピックスとして、国内部門においては、活況を呈しているボトルウォーターに対応するコンパクト給茶機「ティーサーバー」を開発した。日本のオフィスでは給茶機が普及しているが、1台50万～100万円と高価であるため、5年程度のリースで利用する企業が多い。そこで、当社は「ティーサーバー」を開発した。従来の給茶機では、5種類の茶葉をセレクトし、ホットとアイスで提供していたが、今回開発した「ティーサーバー」では3種類に絞っている。他社の給茶機サービスは、リース料と茶葉の購入で月額2万～3万円程度の



経費がかかるが、当社は500杯分の茶葉を含めて月額7,350円（5年契約）で提供している。また、ボトルウォーターを使用するため、配管が難しい場所にも設置することができる。

2つ目のトピックスとしては、経営サポート室を拡充した。一昨年にスタートした「お客様センター」では、これまで東京都内の顧客に対応してきたが、軌道に乗ってきたため、スタッフを増員し、日本全国に対応エリアを拡大している。フリーダイヤルとなっているため、顧客側に費用はかからない。また、トレーニングされたプロのスタッフに対応しており、すべての苦情がデータベース化される。従って、これまでは現場で止まっていた苦情の内容が、担当者だけではなく、支店の責任者や支店を統括する本部長にも周知され、内容の重要度によっては、国内部門の社長まで届く。会社全体で情報共有を行うため、早期に対策を打つことができる。なお、震災の影響で東京の水に放射能が検出された際は、通常1,000件程度の問合せが1万件を超えた。

今年3月には、福島県いわき市にマット・モップのダストコントロール専門の洗濯工場を新設した。当社は、2000年にダスキンから独立し、自社ブランドでダストコントロールビジネスを開始したが、これまで洗濯については、外注していた。一昨年を買収した福島の企業がダストコントロールの自社工場を持っていたため、そのノウハウを生かして、全体の3分の1程度を加工することができる工場を新設したのである。スタートから3日後に震災が発生し、配管などの修理が必要な状況となったが、工場は福島原子力発電所から50キロ以上離れており、現在は通常稼働となっている。秋には、当初の予定通り東京都内の顧客の加工も開始し、コストダウンにつなげていく予定である。

米国部門のトピックスとしては、ドルベースで2期ぶりに増収に転換し、成長路線へ復帰した。直近の第4四半期（1～3月）のみで比較すると、ドルベースで前期比104.9%となっており、成長ペースを回復している。今期に入っても順調に推移しており、4月は実質108%程度となった。

営業利益については、ドルベースで前期比147%となった。米国の景気後退に伴う前期の減収を受け、抜本的な経費削減策を実施した結果だと考えている。また、コーヒー商品相場が急騰し、大幅に原価が上昇したが、契約に基づき、ほぼ100%販売価格に転嫁したことも増益の要因である。



■東京23区で365日サービス体制を実施

2012年3月期の業績予想として、米国部門の売上高については、ドルベースで前期比107.1%を見込んでいる。この結果、連結売上高は米国部門が62億16百万円、国内部門が80億4百万円となり、トータルで142億20百万円(前期比100.9%)となる見込みである。

営業利益については、米国部門で2億88百万円を予想しており、大幅な増益となる見込みである。国内部門では6億69百万円を予想しており、販促費用が増加することから前期比で微減となるが、米国部門でカバーし、トータルでは9億58百万円(前期比111.9%)となる見込みである。当期純利益については、当期に発生した特別損失がなくなるため、5億37百万円(同153%)を予想している。

国内部門の重点政策としては、「お客様目線」に立った顧客サービスを展開していく。具体的には、「ルートオペレーションの基本」を忠実に実行し、付加価値・顧客満足度の向上を図る。また、年中無休・365日サービス体制を東京23区で実施する。これまで土日を休業としていたコールセンターを今期から年中無休とし、サービス担当者についても、シフトを組んで365日対応していく。まず東京23区からスタートするが、近い将来には日本全国で展開していきたいと考えている。また、今期は商品ごとの専門セールsteamを拠点の管轄エリアに配置し、顧客のニーズにスピーディーに対応できる体制を確立していく。加えて、管理オペレーションを簡素化するため、事業単位での営業体制を確立し、経営効率の最大化を図る。

■ミルウォーキー市場に進出

米国部門の重点政策としては、今後の穏やかな景気回復を前提として、営業力の増強に注力する。また、拠点別に採算・生産性効率を最大化できるよう、売上管理・利益管理を行っていく。M&A戦略としては、既存拠点(9州)に統合可能で、即時利益増加になる案件を中心に実行する。当社がM&Aの対象と

する企業は、オーナー経営者が多く、景気回復を待つ傾向が強かったが、徐々に動き始めたため、積極的に進めていきたい。

未進出地域では、既存の管理体制で対応可能な地域の案件に着手する。具体的には、シカゴからテキサスのラインの西側を重点的に攻めていきたい。出店計画としては、今期中にウィスコンシン州ミルウォーキー市場に進出する。ミルウォーキーは、シカゴに近い大きなマーケットとなっており、近日中には営業拠点の物件が決定する予定である。

対処すべき課題として、国内部門については、商品開発部門の拡充、経営企画部門の機能拡大により、機動力の向上を図る必要がある。また、採算の合うコスト構造で営業体制を構築していきたい。

米国部門では、拠点ごとの利益管理を着実にやっていく。また、これまでは、大型のM&Aで進出し、その後、拠点を整理・統合しながら収益性を高めてきたが、今後は自力出店型の市場進出ノウハウを蓄積していきたい。M&Aについても、5年前に進出したシカゴ・デトロイトの営業権償却が今年の9月までに完了し、収益体質が改善するため、積極的に新たな地域に進出していきたいと考えている。

(平成23年5月16日・東京)

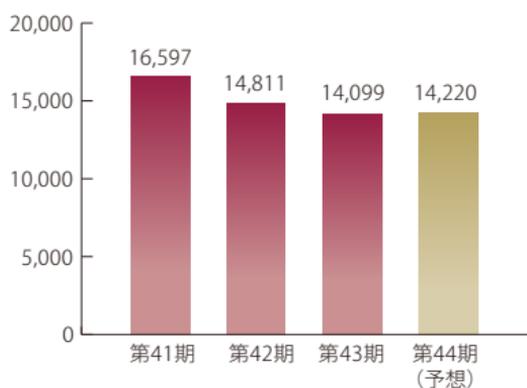
※本著作物の著作権は、社団法人日本証券アナリスト協会に属します。本稿は社団法人日本証券アナリスト協会のホームページに掲載された会社説明会要旨を同協会の許可を得て転載するものです。



業績の推移

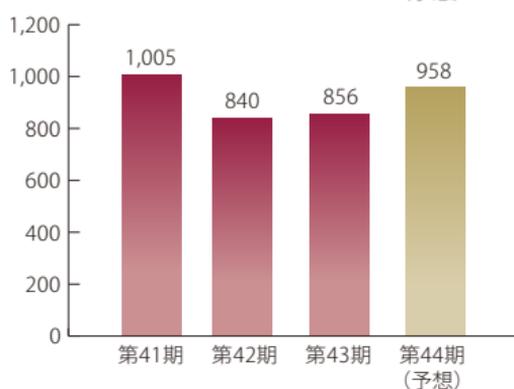
売上高

(単位：百万円)



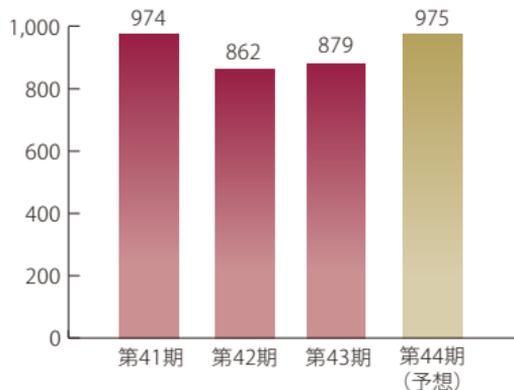
営業利益

(単位：百万円)



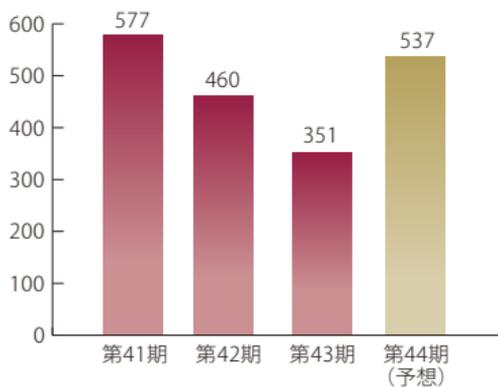
経常利益

(単位：百万円)



当期純利益

(単位：百万円)



決算概要(連結)



連結貸借対照表

(2011年3月31日現在)

(単位：百万円)

	第43期	第42期	増減
資産の部			
流動資産	4,470	4,845	△375
現金及び預金	2,119	2,416	△297
売掛金	1,278	1,390	△111
リース投資資産	240	212	28
商品及び製品	439	476	△37
仕掛品	4	2	1
原材料及び貯蔵品	63	63	0
繰延税金資産	215	175	39
その他	167	158	9
貸倒引当金	△59	△50	△9
固定資産	3,991	3,929	62
有形固定資産	2,193	1,701	492
無形固定資産	1,014	1,359	△345
投資その他の資産	783	868	△85
資産合計	8,461	8,774	△313
負債の部			
流動負債	1,413	1,638	△224
買掛金	353	364	△11
短期借入金	212	343	△130
未払法人税等	69	161	△91
未払費用	266	259	7
賞与引当金	99	148	△48
訴訟損失引当金	-	74	△74
その他	412	286	125
固定負債	85	18	66
負債合計	1,499	1,657	△157
純資産の部			
株主資本	7,757	7,606	150
資本金	1,051	1,051	0
資本剰余金	1,119	1,119	0
利益剰余金	5,594	5,444	150
自己株式	△7	△7	0
評価・換算差額等	△795	△489	△305
純資産合計	6,961	7,117	△155
負債・純資産合計	8,461	8,774	△313

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

決算概要(連結)

連結損益計算書

(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位:百万円)

	第43期	第42期	増減
売上高	14,099	14,811	△711
売上原価	5,813	6,091	△277
売上総利益	8,286	8,720	△433
販売費及び一般管理費	7,429	7,879	△450
営業利益	856	840	16
営業外収益	44	49	△4
営業外費用	21	27	△6
経常利益	879	862	17
特別利益	7	0	6
特別損失	196	11	184
税金等調整前当期純利益	690	850	△160
法人税、住民税及び事業税	292	427	△135
法人税等還付税額	—	△0	0
法人税等調整額	46	△37	84
当期純利益	351	460	△109

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位:百万円)

	第43期	第42期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,451	1,700	△248
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,358	△496	△861
財務活動によるキャッシュ・フロー	△322	△320	△1
現金及び現金同等物に係る換算差額	△68	△11	△56
現金及び現金同等物の増減額	△297	871	△1,168
現金及び現金同等物の期首残高	2,416	1,545	871
現金及び現金同等物の期末残高	2,119	2,416	△297

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。



株主優待のご案内

- 贈呈基準**： 毎年9月30日現在の株主様
- 優待内容**： ■300株～1000株未満
100杯分のバラエティードリンクセット
■1000株以上
200杯分のバラエティードリンクセット
- 発送時期**： 12月中旬頃を予定しております。

株主メモ

- 事業年度**： 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金受領株主確定日**： 3月31日
- 中間配当金受領株主確定日**： 9月30日
- 定時株主総会**： 毎年6月
- 株主名簿管理人
特別口座の口座
管理機関**： 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先**： 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
- 上場証券取引所**： 東京証券取引所
- 公告の方法**： 電子公告により行います。
公告掲載URL <http://www.daiohs.com>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



Daiohs®

株式会社 **ダイオース**



株式会社 **ダイオース**

本 社：〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル23階

代表電話：03-3438-5511

U R L：<http://www.daiohs.com>